

2018年度 中国会計制度論活動報告

2018年9月1日から9月8日までの8日間、「中国会計制度論」が上海財經大会計学院で開講されました。長崎大学からは12人の学生が参加しました。事前学習では、中国に対するステレオタイプな考えを持っている学生もいましたが、実際に上海に行くと空気がきれいで、日本人に対しても中国人の方々は非常に親切に接してくれました。メディアだけの情報に頼らず、自分の目で確かめることの重要性を感じました。中国経済の発展の過程や会計に関する講義を主に受講しました。英語による講義を通じて、中国経済や会計の分野を学ぶことができたのは貴重な体験でした。日本との違いなどについても言及されていて、興味深く学生も聞いていました。また、長崎県上海事務所では、日本人駐在員の方のお話を聞くことができました。海外で働くことの楽しさや難しさについて伺い、将来の選択肢として、海外で働くこと意識を持ってました。日本と中国のつながりを、これまで以上に身近に感じることができました。上海新嘉華会計事務所では、中国で働くことについてのお話をいただきました。そして、勉強の合間には上海の観光をしました。内容の深い講義を受講しながら、上海の先進的な文化に触れることができ、充実した8日間となりました。



長崎県上海事務所にて



新嘉華会計事務所にて



上海外灘の夜景

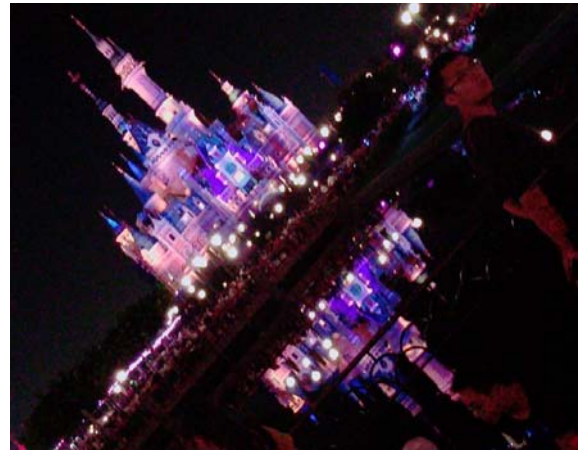


豫園の街並み





上海财经大学



上海ディズニー



上海财经大学



龍安寺

【学生の感想】

上海财经大学の学生や先生方、訪問先の企業の方々にお世話になった一週間でした。日本企業も多く、日中のつながりを感じるが多かったです。駐在員の方の話を聞き、海外で働くことへの憧れを抱きました。国内から見る日本だけではなく、海外から見る日本という新しい視点を得ることができました。また、中国から学ぶべき技術（FinTech、デリバリーサービス等）は多いと思いました。実際に利用してみて、とても便利でした。キャッシュレスの流れは加速していくと思うのでいち早くその最先端に行く中国でQRコード決済の現場を見られたのは良かったと思います。また、Marketingの授業では4P(Price, Place, Promotion, Product)の概念を勉強しながらTOYOTAやアメリカのチョコバーなどの例からこの4Pを学んでいきました。このように日本の1つ1つと区切られた科目と違い、ひとつの事例から様々な分野に落とし込んで学ぶ体系的な授業方法は初めてでとても新鮮でとても楽しかったです。そして、上海の発展規模の大きさには圧倒されました。日本も負けていけないな、と思いました。